

回向墓誌

抑々安藤氏ノ出自ニ就テ詳カナラザルモ家傳ニ依ルニ宝曆頃如何ナル理由ナルヤ浪人トナリシ安

藤新右衛門知剛ガ武藏国埼玉郡二丁目村ノ鍛冶屋ニ草鞋ヲ脱ギヤガテ流山ノ地ニ住セシニ始

マルル来節ヲ持シテ再ビ仕ヘス巷ニ於テ子弟ヲ教ヘテ糊口ヲ凌グ法華經ノ信仰厚ク文化丁巳

四年二月奉唱題目六万部ノ碑ヲ平賀本土寺境内ニ建立ス内ニ在リテハ子弟ノ教育ニ意ヲ用

ヒ二代並ニ三代新右衛門仕官ノ意ヲ有セシモ時アタカモ幕末ニ至ル社会不安増大ニ依リ寺子

屋ヲ閉鎖スルモ止ムナキニ至ル明治維新後ハ零落シ四代新右衛門艱難辛苦センモ五代新太

郎ハ農業ノ傍ラ養豚ノ仲買豆腐ノ製造六代源太郎ト共ニ従事シ題目ヲ屋号トナシテ朝

ニハ星ヲ戴キ夕ニ鷄鳴ト共に眠ル日夜克吉精励漸クニシテ生活ノ安定ヲミルニ至リタリ

祖先ヲ崇敬シ且ツソノ艱苦ヲ偲ビ冥福を祈念スルハ子孫トシテ生ヲ稟ケシ者ノ務ナリ茲ニ於イテ七代

新右衛門祖靈ノ心ニ感泣シ回向塔ヲ建立シ奉恩謝徳誠ヲ捧グルモノナリ

昭和五十二年十一月
新右衛門千時六十

読み下し

抑々安藤氏ノ出自ニ就テ詳カナラザルモ 家傳ニ依ルニ宝曆頃如何ナル理由ナルヤ浪人トナリシ

安藤新右衛門知剛ガ武蔵国埼玉郡二丁目村ノ鍛冶屋ニ草鞋ヲ脱ギ ヤガテ流山ノ地ニ住セシニ

始マルル 来節ヲ持シテ再ビ仕ヘス 巷ニ於テ子弟ヲ教ヘテ糊口ヲ凌グ

法華經ノ信仰厚ク文化丁巳四年（文化丁卯四年）二月奉唱題目六万部ノ碑ヲ平賀本土寺境内ニ建立ス

内ニ在リテハ子弟ノ教育ニ意ヲ用ヒ

二代並ニ 三代新右衛門仕官ノ意ヲ有セシモ時アタカモ幕末ニ至ル社会不安増大ニ依リ

寺子屋ヲ閉鎖スルモ止ムナキニ至ル

明治維新後ハ零落シ四代新右衛門艱難辛苦センモ

五代新太郎ハ農業の傍ラ養豚ノ仲買 豆腐ノ製造六代源太郎ト共ニ従事シ

題目ヲ屋号トナシテ朝ニハ星ヲ戴キ夕ニ鶏鳴ト共に眠ル（朝は鶏鳴と共に起き夕に星を戴き眠る？）

日夜克吉精勵漸クニシテ生活ノ安定ヲミルニ至リタリ

祖先ヲ崇敬シ且ツノ艱苦ヲ偲ビ冥福ヲ祈念スルハ子孫トシテ生ヲ稟ケシ者ノ務ナリ

茲ニ於イテ七代新右衛門祖靈ノ心ニ感泣シ回向塔ヲ建立シ奉恩謝徳誠ヲ捧グルモノナリ

昭和五十二年十一月

新右衛門千時六十

二丁目村 江戸時代五〇五石あまりの村で現八潮大字二丁目あたりにあった村。
糊口 〓 粥(かゆ)を口にする意 〓 ほそぼそと暮らしを立てること。

文化丁巳四年 〓 文化丁卯四年もしくは文化己巳六年(文化年間に丁巳の年の干支は無い)
〓 ここでは文字間違いの数から文化丁卯四年であろうと考える。

鶏鳴 [雞鳴・けいめい] 〓 鶏 [鶏の異字体] で鶏の鳴き声。

克吉 (熟語としては分からない。「克 〓 力を尽くしてかつ・吉 〓 さいわい」の意味)。

(克己かも?)

稟ケシ 〓 さずかった。

新右衛門千時六十 〓 新右衛門千時六十歳? (千時は名前?)

※お願い

佐久間の勝手な解釈で正しくは無いかも知れません。疑問点がありましたら、指摘して下さい。
そして勉強会と言う事で一緒に再考したいと思いますと思えます。